

第4学年国語科学習指導案

指導者 住田 信太郎

- 1 日 時 令和7年10月24日(金)
- 2 学年・学級 4年3組31名
- 3 単元名 未来につなぐ工芸品 ～工芸品のみりよくを伝えよう～
- 4 単元について

○児童観

・「読む」という観点では、「思いやりのデザイン/アップとルーズ」の学習を通して、文章を対比しながら学習に取り組み、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えられるようになってきている。

・「話す・聞く」という観点では、朝の会や終わりの会を活用し、スピーチや名文音読に取り組み、友達の話を書くことや自信をもって発表することが意識できるようになってきている。

・「書く」という観点では、視写、まとめ、考え、振り返りの学習の流れを定着させ、主体的に書く力を培うようにしてきた。

○教材観

本教材は、日本の伝統工芸、伝統文化、さらには伝統的な生活様式への気づきや知識を得ることだけでなく、ESD（持続可能な開発のための教育）やSDGs（持続可能な開発目標）の観点とも深く関わるといえる。気候変動などを背景に持続可能性が重視される昨今の社会にとって、非常に大切な示唆を与えてくれるものである。

○指導観

・国語科学習指導要領では、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにすると定義されている。また、中心となる語や文を見つけて要約し、「理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する」と定義されていることから、興味のある工芸品について、リーフレットを作る活動に取り組み、様々な参考図書や資料などから「必要な知識や情報を得る」ことで、それらの有用性を実感させる活動に取り組み、思考力、判断力、表現力をつけていきたい。

・工芸品を手にとって自分がどう感じたかを伝えてほしいという筆者の願いについて、具体物（工芸品）に触れさせ、考えをまとめられるようにする。

・「読むこと」で学んだことを「書くこと」でいかす経験を積み、生きた力として身につけさせるために、資料を活用し、必要な情報を集め、それらを整理してリーフレットの形にまとめる活動に取り組みたい。

○めざす「主体的に学びあうこどもの姿」

知識を深め、思いを受け継ぎ、感じたことを伝えようとする姿

5 単元の指導計画（本時 6 / 12）

次	時	学 習 内 容	評 価
1	1 2	○単元全体の流れを把握する。 ○文章をまとまりに分け、筆者の伝えたいことを捉える。 ○初発の感想を基に学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。	主 単元の学習の見通しをもって学習計画を立て、教材文を読んで学んだことをリーフレット作りにかかそうとしている。
2	3 4・5 6 (本時)	○課題「筆者の考えを表している文章はどこだろう。」について叙述をもとに考えノートにまとめる。 ○課題「筆者が工芸品を未来にのこしたい理由とはなんだろう。」について叙述をもとに考えノートにまとめる。 ○課題「筆者の思いをうけついで工芸品のみりよくを伝えよう」について叙述を基に考えたり、さまざまな工芸品に触れ、魅力について伝え合ったりする。	知 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。 思 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけてまとめている。 主 積極的に中心となる語や文を見つけて要約し、学習の見通しをもって、筆者の考えについて考えたことを伝え合う。
3	7 8 11 12	○興味をもった工芸品についてさらに調べて、リーフレットにまとめる。 ・参考図書や工芸品を提示し、まとめられるようにする。 ・文章の組み立てと資料の使い方を確かめる。 ・組み立てに沿って文章を書く。 ○完成したリーフレットを紹介する。	知 参考図書の使い方を理解し使っている。 思 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表している。 主 積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫して、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。

知=知識・技能 **思**=思・表・判 **主**=主体的に学習に取り組む態度

6 単元の目標

- 知** 参考図書や事典などの使い方を理解し使うことができる。
- 思** 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
- 主** 積極的に、中心となる語や文を見つけてまとめたり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫したりして、調べて分かったことを書こうとしている。

7 本時の目標・評価

知・思 読むことにおいて、目的を意識して、中心となる語や文を見つけてノートにまとめている。

主 工芸品のみりよくを伝え合おうとしている。

A：これまでの学習を活かして、工芸品の魅力を自分なりの視点で、分かりやすく伝えることができる。

B：工芸品のよさを伝えることができる。 「まなボードで評価」

8 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点
1. 前時までを振り返る。 2. 本時の課題を確認する。	○本時の学習課題を黒板に掲示し、全員で読むことで確認する。 ○これまでの学習について壁面掲示を活用し、振り返ることができるようにする。
筆者の思いをうけついで、工芸品のみりよくを見つけて伝えよう	
3. 学習場面（ P53L6～P53L10 ）を音読する。 4. 「課題に関連する文章」について、叙述を基に筆者の思いを整理する。 「わたしは、工芸品をのこすことは、日本の文化やげいじゅつ、そして、かんきょうを未来につないでいくことになると思います。だから、みなさんにもぜひ、工芸品を手にとってみてほしいと思います。そして工芸品のみりよくを感じたら、『一人の職人』になって、先生や友達、家族に自分がどう感じたのかを伝えてみてください。」 5. <u>各グループでそれぞれに提示された工芸品に触れ、自分の考えを交流する。</u> ・工芸品にふれる。「この工芸品の魅力は何だろう」「長持ちしそう」「量産品と比べると重たい。材料が違うと思う」「どんな思いで工芸品を作ったのだろう」「歴史を感じる」「家にあると便利かもしれない」「とても使いやすい」「デザインがいい」「手作業で工芸品を作る職人はすごい」 ・量産品にふれる。「比べると重さが違った。」「手触りが違う」 「材料の違いがよくわかる」 6. 学習をふりかえる。	○一斉読を行うことで、個々の児童が学習場面を意識し課題をつかむことができるようにする。 ○学習場面の中から筆者の思いと工芸品の魅力について書かれている内容を整理することで課題に対して問題意識をもつことができるようにする。 ○様々な工芸品（熊野筆、丸亀うちわ、南部鉄器、奈良墨）に触れさせ、工芸品の魅力について考えられるようにする。 ○工芸品と量産品を比較し、視点や見方を広げ、考えが深まるようにする。 ○学習を振り返り、次の学習から、リーフレットづくりに取り組むことを伝え、学習の見通しや意欲を高められるようにする。

9 授業の視点

- ・「具体物（量産品と工芸品）を用いて工芸品の魅力を伝え合う」ことで思考を深めることができたか。
- ・課題解決に向けて主体的に交流することができたか。